

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.45

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変…。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

John Kirby【ジョン・カービー】



Photo: "1941-1942" / John Kirby and his Orchestra (Circle : CCD-14)

Profile

1908年12月31日、米国ヴァージニア州ウィンチェスター生まれ(メリーランド州ボルティモア生まれという説もある)。9歳の頃にトロンボーンを学び始める。27年頃にボルティモアに移る。その頃ジミー・ハリソンの説得でトロンボーンからチューバに転向。20年代後半にNYに進出。ビル・ブラウン&ヒズ・ブラウンニーで活動後、ブルックリンやハーレムで演奏を重ねる。29年にチューバ奏者としてフレッチャー・ヘンダーソン楽団に加入。その後、ベースに転向。ポップス・フォスターとウェルマン・ブロードにベースを師事。33年にヘンダーソン楽団を退団し、チック・ウェブ楽団に参加。35年頃からバンド・リーダーとしても活躍。36年ラッキー・ミリングアのバンドに参加。37年に自身の六重奏団を結成し、ホテル“ウォルドルフ・アストリア”で初の黒人バンドとして長期出演を果たし、ラジオ放送にもレギュラー出演する。38年にマキシム・サリヴァンと結婚して歌手として売り出すが41年に離婚。42年に以降も自身のバンドで活動していたが、メンバーの出入りが激しくなると共に輝きを失い47年に解散。過度なアルコール摂取の他、晩年は糖尿病にも悩まされた。50年にカリフォルニアへ移り、新バンドの結成を企画していた矢先の1952年6月14日、米国カリフォルニア州ボハリウッドにて死去。享年43歳。

スイング・ジャズ全盛期を支えた名ベースマン

ベース奏者だけでなく、トロンボーン奏者、チューバ奏者としても活躍したジョン・カービー。1937年に結成された自身の六重奏団は“地上最大の小楽団”と称され、大成功を収めた。1940年4月から1941年1月までCBSにて、“ザ・ジョン・カービー・ショウ”として知られた30分間のラジオ番組を持ち、1947年に公開された米国映画『セピア・シンデレラ』にも自身の六重奏団と共に出演を果たすなど、スイング・ジャズ全盛期に活躍し、「ロック・ローモンド」や「アンディサイ デッド」等のヒット曲も生んだ。そのジョン・カービーの偉業を称えるように、デイヴ・ペル、ドン・パイロン、クロード・ティサンディエ等によるトリビュート作もあり、1993年にはビッグ・バンド&ジャズの殿堂入りも果たしている。現在ではその名を知る者も少なくなりつつあるが、ジャズ史を支えたこの名ベースマンの存在を忘れては欲しくない。

JK's Great Albums

幸運にも輸入盤で数々の名演が残されているが、ここではジョン・カービーの音源、元妻マキシム・サリヴァンとの音源の他に、カービーへのトリビュート作品2枚を紹介。



1938-1939

ジョン・カービー&ヒズ・オーケストラ
(Classics : CLASSICS-750) [Import CD]

1938年ニューヨーク、1939年シカゴで録音されたジョン・カービー&ヒズ・オーケストラの名演22曲を収録。カービーの強力なビートが聴ける。



モア 1940-1941

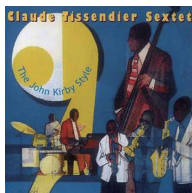
マキシム・サリヴァン・アンド・ジョン・カービー
(Circle Records : CCD-125) [Import CD]

ジョン・カービーが1938年に結婚した黒人シンガー、マキシム・サリヴァンとの貴重な共演音源、1940年から1941年にかけての18曲を収録。



リメンバース・ジョン・カービー/ザビッグ・スモール・バンド
デイヴ・ペル
(Fresh Sound : FSR-2259) [Import CD]

サクソフ奏者デイヴ・ペルがカービーに捧げた『リメンバース・ジョン・カービー』を含む代表作2枚のカップリング盤。1959 & 1960年録音。



ザ・ジョン・カービー・スタイル
クロード・ティサンディエ・セクステット
(Djaz Records : DJ-7192) [Import CD]

仏のアルト奏者クロード・ティサンディエ率いるセクステットが1986年に発表したカービーに捧げた作品。クールでスイングーな18曲を収録。